

## 【令和7年度の終了に寄せて】

三寒四温を繰り返しながら、待ちに待った「春」が間近に迫ってきました。今年の冬は厳しい寒さが長く続いたこともあり、春の訪れがひときわ待ち遠しく感じられました。

3月は旧暦で「弥生（やよい）」と呼ばれます。その語源をたどると、「冬の静けさから、春の生命が勢いよく芽吹く様子を表している」と記されています。古来より、人々は自然の移ろいから、その生命の神秘を感じ取ってきました。その感性が、今も変わらず私たちの心に息づいていることを改めて思います。

まもなく、新しい年度が始まります。私たちも、春の芽吹きに負けない期待と希望を胸に、次の一歩に向けた準備を進めてまいりましょう。



## 【卒業式～巣立ち～】

今月12日（金）の平群中学校卒業式では111名が、また19日（木）に行われた町内3小学校の卒業式では、平群小62名、平群北小64名、平群南小20名、合わせて146名の児童が、それぞれ思い出の詰まった学び舎から、次のステージへと巣立っていきました。

まだ寒さの残る当日でしたが、小学校・中学校ともに、卒業式に臨む子どもたちの姿は厳粛で、会場全体が心地よい緊張感に包まれていました。未来へ旅立つ卒業生を祝福するように、参列された皆さまからは惜しみない拍手が送られていました。

特に印象深かったのは、卒業生による最後の答辞です。

中学校では代表生徒が、クラスや部活動で仲間や後輩、先生方とともに積み重ねてきた3年間の思い出を振り返り、自分が気づかぬうちにどれほど大きく、そして逞しく成長できたのかを語ってくれました。さらに、これからの未来を担う者として、平和な社会を受け継ぎ、新たなことへ積極的に挑戦していく決意が力強く述べられました。

一方、小学校では、伝統として受け継がれている在校生全員からの「贈る言葉」を受け、卒業生ひとりひとりがバトンをつなぐように、6年間の思い出や、日々の活動を通じて学び取ったことを「ここを込めて」語ってくれました。とても感動を覚える子どもたちの姿でした。

当「教育長だより」の結びに、中学校の卒業式にて卒業生に対し贈った告示からのメッセージを掲載させていただきます。



次のステージに向かう小学校6年生を含め、小・中学生すべての人たちに届けたい言葉です。

中学校3年生の人たちとともに、心にとめていただければ幸いです。

## 【町内小・中学校体育館の「空調整備等工事」について】

これまでもお知らせしてまいりましたように、近年の地球規模的な気象変動による夏季の酷暑への備え、そして大規模地震や水害など、いつ発生してもおかしくない有事の際の「避難所」としての機能強化を目的として、町内小・中学校体育館への空調整備等工事を実施いたします。

まずは、平群小学校および平群北小学校から工事に着手します。4月の入学式終了後に開始し、1学期間での完了を予定しています。

続いて、平群南小学校と平群中学校については、1学期より工事の準備に入り、8月から本格的な工事を開始します。尚、完了ですが、平群南小学校は12月末を、また平群中学校は来年2月末をそれぞれ予定しております。

工事期間中は、体育の授業や中学校の部活動、さらに次年度1年間にわたり社会体育施設としてご利用いただいている各種団体の皆さまには大変ご不便をおかけいたします。安全確保を最優先に、予定通りの完成に向けて工事を進めてまいります。

ご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 【中学校の部活動の地域移行化について】

いよいよ4月から休日における中学校の「地域クラブ活動」を開始してまいります。

現在、中学生1・2年生対象に、活動日数や参加費用等の事項をお伝えするとともに、休日の活動への参加意向等を把握する為の調査を行っています。



地域クラブの開設は運営制度上「4月1日」となりますので、4月に入りますと正式な「入会の手続き」等を順次行ってまいります。詳しくは現在学校部活動として行っている中学校を通じてお伝えしてまいりますので、先生方からの情報伝達をお聞きくださるようお願いいたします。尚、小学校6年生については、4月8日の中学校入学式以後にお伝えしてまいりますのでご安心ください。

## 【町立図書館へ行こう！！～祝 創立20周年～】



本町総合文化センター内にある町立図書館が、今年創立20年を迎え、去る1月24日（土）に記念式典・行事を行いました。

当日は、創立当時の様子を「20年のあゆみスライドショー」にして上映し、これまでの足跡をたどりました。

また、10年前の創立10周年記念式典時に町内の方々へ呼びかけに対しお寄せくださった「10年後のご自身へのメッセージ」をタイムカプセルとして保管していました。今回の式典でそのカプセルを開封し、ご披露させていただきました。また、お預かりしたメッセージは、その後ご自身に送付させていただきました。10年目に届いた「サプライズ」はいかがだったでしょうか……。

次年度から、より多くの方々にご利用いただけるよう、総合文化センターとともに「国民の祝日」にも開館をいたします。

これからも、町民の方々から「親しまれ、愛される図書館」としての役割を果たせるよう、スタッフ一同努めてまいります。

たくさんの方々のご来館を、心からお待ちしております。



### 【伝統を繋ぐ 未来へ託す】

3月8日（日）、町立図書館開館20周年記念式典の一環として、「山本瓦工業株式会社 工場長 山本 正道氏」を講師としてお迎えし、「瓦の声を聴く」と題した講演会を開催しました。約200名近い皆様のご来場くださり、とても熱心にお聴きになってくださいました。

正直なところ、私自身、この講演を拝聴するまで、山本瓦工業株式会社様のことを十分に存じ上げず、本町に工場を構えておられること、そして何より、日本の文化財や社寺建築において極めて重要な役割を果たしてこられた企業であることを全く知りませんでした。

この度の講演会で、大変貴重なことを知り得ることが出来たことを、是非とも皆さま方にもご紹介したいと思い編集いたしました。

山本瓦工業株式会社様の工場は、本町・榎原にあります。国道168号線を南へ進み、「秋津橋北詰」交差点を右折して竜田川沿いに進むと、いくつかのカーブを過ぎた右手に「日本伝統瓦技術保存会」の看板が掲げられた工場が見えてきます。私も毎朝この前を通って通勤していますが、今では皆さまの顔を思い浮かべながら通り過ぎていきます。

会社は、昭和38年に山本清一氏（平成6年、文部大臣より「選定保存技術保持者【屋根瓦葺（本瓦葺）】」という、いわゆる職人における人間国宝に認定）が創設され、日本の伝統的な文化財・社寺の瓦葺きおよび瓦製造を専門に担ってこられました。主に手掛けたお仕事は、法隆寺金堂、姫路城、東大寺大仏殿、薬師寺伽藍、唐招提寺金堂、平城宮跡朱雀門、大極殿などがあり、その他多くの伝統的な建築物の復原、再建などに携わっておられます。

瓦文化は588年頃、仏教の伝来とともに朝鮮半島から日本に伝わったとされています。技術の継承と文化財の保存は決して途絶えさせてはならない営みであり、そのためには人材育成が不可欠であるとの理念のもと、「ものづくりはひとつづくり、ひとつづくりはくにづくり」を掲げ、次世代の育成に力を注いでおられます。（※山本瓦工業株式会社HPより）

当日の講演では、会社の理念や文化財への貢献、社寺瓦の歴史や特徴、本町内の小学校での社会見学の受け入れ、各地での講演活動など、幅広い取り組みについて丁寧にご説明いただきました。また、



実際の瓦づくりの工程の一部を体験させていただく機会もありました。私も粘土をこね、型に取り付ける工程を体験しました。わずかな時間でしたが、童心に返り、夢中になって作業に取り組んでいました。とても充実した楽しいひと時ひとときでした。

この度の講演会により、当社の事を知ることができたこと、また、町内にこのような技を守り続ける方々がいてくださることに、深い喜びを感じました。

【次のステージに向かうあなたに贈る言葉】

あなたたちは、家族や先生、友だちなど、  
多くの人に支えられてきた。

それは、決して未熟だからではなく、  
人が成長していくうえで誰もが通る、自然で大切な時間である。

実は、そういった経験を通して、  
自分の心の中にある「優しさの種」を育ててきているのだ。

この先、大人へと向かう中で、やがてその種が芽を出す。  
誰かの言葉に耳を傾けたり、  
困っている人に、そっと手を差し伸べたり。

大きなことをしなくても、  
あなたの存在が、誰かを支える日が、必ずくる。  
きっとくる。